

プーチン「お前らの臭い口をふさいでやる」：歴史の書き換えを許さぬ

ロシアは万人に閲覧自由の資料を提供し、2次大戦の歴史の改ざんと戦おうとしている

【訳者 Greatchain】なるほど、これをよく読むならば、プーチンが大統領職を切り上げて、もっと肝心の仕事に取り組もうとする理由がわかるような気がする。彼はロシア民族の名誉を傷つける者たちを許すことができなかった。プーチンのロシアを敵視する者たちは、単にロシアを武力で滅ぼそうとするだけでなく、その名誉を傷つけようとしている。これを彼は許すことができなかった。

我々「西側」に与する者たちは、よく肝に銘ずべきである。明らかに「サタン」というべき、この者たちに対して、あたかも高貴な王族に対して失礼があってはならないかのように、戦々恐々とするのは、やめるべきである。彼らはゴロツキであり、チンピラであり、下劣な犯罪者である。それをプーチンが教えてくれている。

RT.com

January 18, 2020



Sputnik/
Mikhail
Klimentyev/
Klemlin

モスクワは、第2次大戦記録文書の、最も広範な集大成を作成し、いかなる場所のいかなる人にもこれを開放し、一時的な利益のために、歴史の書き換えを目論む者の「臭い口をふさぐ」ことを目指した、決定的な資料を提供する、とロシア大統領は語った。

どんな人でも、ロシア人だろうと、どこの国の人だろうと、このアーカイブへのアクセスが自由かつ可能である。ウェブサイトを用いることもできる。その究極の目的は、何であれ人間の歴史で最も破壊的な、ニセ情報のウソを暴くことである、とウラジミール・プーチン大統領は断言した。これは、土曜日、セント・ペテルスブルグで行われた「大祖国戦争」 Great Patriotic War の、老兵たちとの会合で話された内容である。

このセンターの創設によって、自分自身の政治利用のために、この戦争について真理を捻じ曲げようとする者たちは、立場がなくなるであろうと彼は論じた。

「何人かの外国の公的立場の者で、単に、一時的に政治的な目標を達成しようとして、このようなことを企む者どもについては、我々はその臭い口をふさいでやるだろう。」

このセンターでは、最も広範囲に収集された、最大の記録文書の編集が行われる予定であり、第2次大戦時代に戻って、各種の写真や映画ビデオが盛られている。大統領は最初、このアイデアを、今週早くに、彼の「年次教書演説」でほめかし、ロシアは、「鉄面皮なウソと、歴史を歪曲する試み」に敢然と戦うべきだと論じた。

セント・ペテルスブルグでは、プーチンはまた、誰一人地球上で、「ホロコースト」の真の恐怖を忘れることを許さない、テル・アビブの例に、モスクワは倣うべきだとも言った。

RT.com 関連情報:「我々が忘れることのないように——第2次大戦勝利におけるソビエトの役割について西側の健忘症にある、心穏やかならぬもの…」

「ホロコーストの犠牲者の中には、膨大な数のソビエトのユダヤ人がいた」と彼はつけ加えた。「我々はまた、他のソビエトの人々、ロシア人たちのことを忘れてはならない。彼らは、彼らの祖国と全世界を、ナチズムという「茶色の疫病」から守ったのだ。」

プーチンの言葉は、第2次大戦に繋がっていった出来事をめぐって、モスクワとワルシャワの間で、口論になっている。ポーランドはかなり昔から、この破壊的な闘争の歴史を修正しており、その期間の出来事に関して、いかなる責任も避けようとしてきた。そして自分自身を、ナチとソビエトの侵略と占領の、両方の犠牲者だと主張してきた。

ワルシャワはずっと、ソビエトの兵士たちに捧げられた記念碑を、取り除こうとしてきたが、これは、ナチスドイツの占領から、この都市を解放しようとして死んだ人々のものである。また彼らは、9月に、EU 議会である議決を取り付けようとしたが、彼らは、この 1939

年の、モスクワとベルリンの間の不可侵略条約は、「第2次大戦の勃発に道を開いた」と主張している。

RT.com 関連情報:「〈ポーランドでは第2次大戦のことなど、もはや誰も関心がない〉: ワルシャワは、自分がファシズムから解放された75周年記念のことを、無視している」

この最後の動議のことは、モスクワを不快にさせるもので、彼らはそれを歴史の偽造と呼んだ。プーチン自身が最後には、この2国間の熱した討論に加わり、そのとき彼は、Jozef Lipski——1934年から1939年までの駐ベルリン、ポーランド大使——を、“a bastard and an anti-Semitic pig”「ばかやろうで反ユダヤ主義のブタ」と呼んだ。

プーチン大統領は、この大使は、アドルフ・ヒトラーに対し、もし彼がヨーロッパのすべてのユダヤ人を、アフリカに追放してくれるなら、ポーランド人は「彼のためにワルシャワに、素晴らしい記念碑を建てて差し上げるだろう」と、約束したという事実と言及した。ワルシャワはプーチンの発言に腹を立てたが、リプスキーの言葉に反論できる者はおらず、これは長く一般大衆に知られている。

この口論はやがて国際的な注目を引くようになり、アメリカと、こともあろうにドイツの大使が、この問題についてポーランドに賛同し、「ヒトラーとスターリンは癒着して第2次大戦を始めた」と論じた。

RT.com 関連情報:「大使館の喧嘩: アメリカとドイツが小競り合い——第2次世界大戦を始めたのはロシアがポーランドか？」

しかし、ポーランドの修正主義方針は、ロシアとの議論に限ったことではない。ワルシャワはまた、その領土で侵したナチスの犯罪について、ドイツからの賠償金を兆単位で請求しながら、ナチスの占領下で起こった、ポーランドのユダヤ人に対すると犯罪自体については、いかなる責任も認めていない。これはワルシャワを、イスラエルとの口論に絶えず導いているスタンスである。

——以上